

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援センターセレン学園		
○保護者評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月5日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援を実施した際に、必ず保護者に対して共有がなされている。フィードバック時にご家庭の悩みや相談を受けて、それを支援計画作成や訪問時の対応に活かすことができていること。	可能な限り当日に家族等へ連絡を入れて支援内容等の共有を行うとともに、書面でも伝えている。 情報の共有については、利用児の利益になるよう、ご家庭の状況や訪問先の状況に合わせて、可能な限り配慮をし、情報の共有をするようにしています。	遠方の方は共有が電話・書面のみとなる場合があるため、利用者の負担にならない範囲でご来園いただき、直接お会いする機会を作る。また、利用者の希望に合わせてオンラインでの面談等を実施する機会を作る。
2	訪問支援員からの助言や説明が、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものになるように努力をしている点。専門的な視点から利用児の姿を観察し、環境に働きかけができること。	訪問支援はお子さんの課題に合わせ、専門的な知識を持ったものがおこなっております。また客観的な視点から集団活動に対してのアドバイスをおこなえるように、利用児の状況に合わせて環境への働きかけをしていくようにしています。	訪問支援員のスキルアップのため、研修の機会を増やして利用者の利益につなげてまいります。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	希望があった場合、迅速な対応が困難。	専門性の担保から、経験の長い職員や専門職が訪問員しているため、希望があった場合に迅速な対応が困難である。	保護者の要望と訪問先の職員との事前会議を通して、必要性を判断し、必要な期間、回数を決定していきます。
2	訪問時以外の情報共有が難しい点。	訪問先と訪問時以外に情報共有を行う時間が短かったと思われる。	今後は訪問時以外にも、利用者や訪問先が相談しやすいような関係を作っていく。また、必要に応じて関係機関との連携を行っていく。
3			